

8月25日正午必着

明石春浦先生書

西風に雁の聲もとぎれがちで落葉も風のまにまに舞う。夕陽さす山亭にいこえ、
寫る。翠葉鬱鬱、舞る也。龍宮の御衣を舞ふ。

別路千餘里
深恩重百年
野色籠寒霧
山光斂暮煙

正悲西候日
終知難再奉一

更動北梁篇
懷德自潸然

(王勃)

明石幸子書

西風に雁の聲もとぎれがちで落葉も風のまにまに舞う。夕陽さす山亭にいこえ、
人坐夕陽亭。翠葉下如雨。落葉迴風舞。

西風斷雁聲
人坐夕陽亭
空翠下如雨
落葉迴風舞

(陳文述)

西風に雁の聲もとぎれがちで落葉も風のまにまに舞う。夕陽さす山亭にいこえ、
山の緑は雨ふる如く衣をうるおす。※空翠は、空高く聳えた山の木立のみどり。

8月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

洗竹 澄花興有餘 (顧況)

竹を洗い花に澆ぎ、興余有り。

竹や花にひと雨ふつて、えもいわれぬ風情である。

移舟泊煙渚 日暮客愁新
野曠天低樹 江清月近人

(孟浩然)

舟を移して煙渚に泊す
野曠くして天樹に低れ
江清くして月人に近し

泊舟して江上の景をうたったものである。

送友人尉蜀中

(徐晶)

友人の蜀中に尉たるを送る

徐晶

故友漢中尉 請爲西蜀吟

故友

西蜀の吟

請う

せいしょく

がん

なま

あら

故友漢中尉 請爲西蜀吟

故友

西蜀の吟

請う

せいしょく

がん

あら

人家多種橘

人家

多く橘を種え

風土

愛レ彈レ琴

琴を弾するを愛す

水は昆明に向かって闊く

山は大夏に通じて深し

理閑にして

別事無くんば

時に一登臨を寄せよ

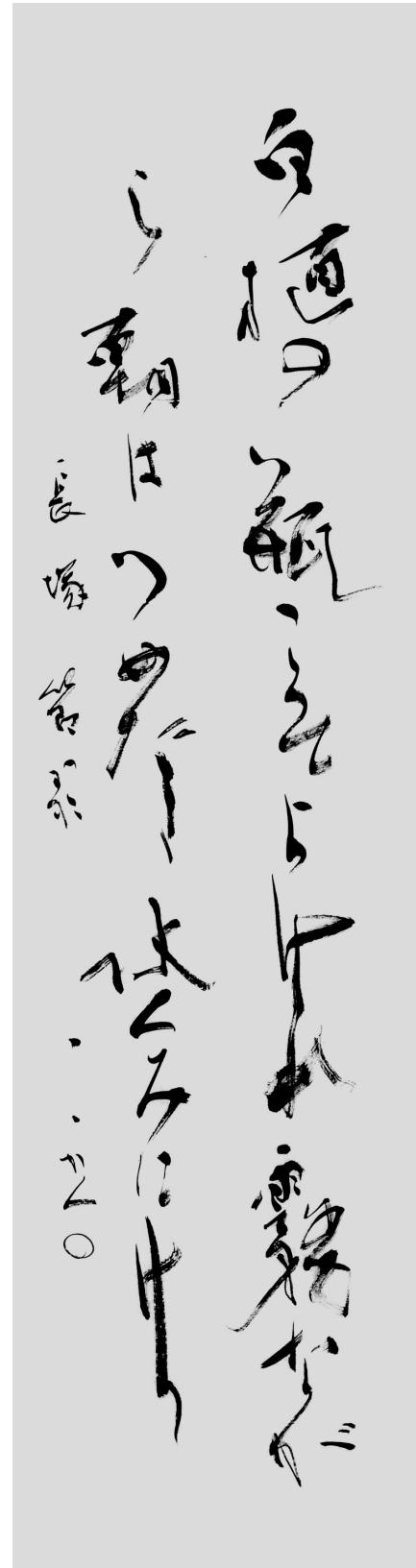
松かげの藤ちる雨に

山越えて

夏花使

野を馳すらんか

(與謝野晶子)



菅井松雲先生書

半紙部規定課題A

8月25日正午必着

殘皇帝

兩正路

分

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書

送人歸山

石召

人

歸

山

召

人

歸

山

相逢惟道在
誰不共知貧
歸路分殘雨
停舟別故人

霜明松嶺曉
花暗竹房春

亦有棲閑意

何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

人

歸

山

召

人

歸

山

相逢惟道在
誰不共知貧
歸路分殘雨
停舟別故人

霜明松嶺曉
花暗竹房春

亦有棲閑意

何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

人

歸

山

召

人

歸

山

草書

残雨歸路
人共誰知
惟道在故
人停舟

残雨歸路
人共誰知
惟道在故
人停舟

残雨歸路
人共誰知
惟道在故
人停舟

残雨歸路
人共誰知
惟道在故
人停舟

お逢いしても何のもてなしもできず、ただともに道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと

帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつげる

松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い

私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが いつになつたら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろう

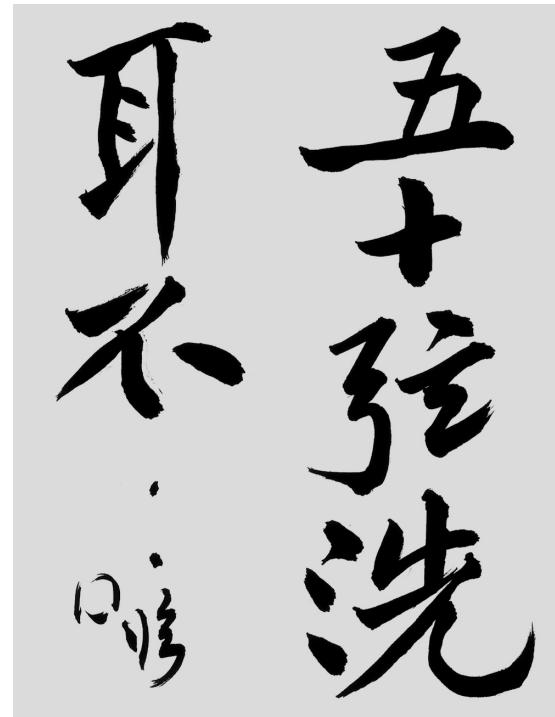
(出典)
朝日新聞社刊
〔三体詩〕下より

条幅部半紙部臨書課題

梧數百年斧
斤所赦今參天
風鳴媧皇五十
弦洗耳不須
弦善薩泉水嘉
二二子甚好賢



(老松魁梧數百年
斧斤所赦今參天 風鳴媧皇五十弦 洗耳不須善薩泉 嘉二二子甚好賢
(老松の魁梧なる
数百年の赦す所 今天に参わる 風は鳴る 媧皇の五十弦
善薩泉を須いづ
二二子の甚だ賢を好むを嘉し
一二子の甚だ賢を好むを嘉し
耳を



宋黃庭堅・松風閣詩卷

黄庭堅は北宋後期の文人で字は魯直、号は山谷という。書は宋の四大家（蔡襄・蘇軾・黃庭堅・米芾）の一人にあげられ、北宋の強烈な新書風を代表する大家である。

庭堅は新旧両法党的争いの中で左遷させられ、幾度となく各地に流されるという不遇の主といわれている。

宋代書風の展開は、前時代の書法の衰退のあとを受け、伝統的な晋唐の書法の再建にはじまり、のちにやがて革新の気を帶びて、精神の発揚の象徴としての書への大転換がみられる。特に蘇軾・黄庭堅・米芾の三人はいずれも顔真卿の影響を強く受け、それぞれの風格をもって後世に受け継がれることになった。

この詩卷は、左遷による鬱屈した庭堅の気持ちが強くじみ出しているといわれている。師と仰ぐ蘇軾の死と流謫中の不自由な境涯を嘆き悲しむといった心境を巧みに織込んでいた。その書は、いわゆる顔法の影響がみられ、更に『適勁』整密・姿態のおもしろさが魅力であるが、その上に不遇な境遇に屈しないで自らの天地を求めようとする強い精神がじみ出しているように感じられる。

（春廣）

8月25日正午必着

教 育 部 毛 筆



せい
盛

か
夏

中学一年

雨宮春聲先生書



れん
連

ほう
峰

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



みず

き

小学五年

榎戸 春龍先生書



みん

ぞく

小学六年

藤井 良泰先生書

8月25日正午必着



ほく
北

せい
西

小学三年

藤田幸春先生書



かい
海

ちゅう
中

小学四年

細谷春誠先生書



う

み

小学一年・幼年

明石幸子書



はち

月

小学二年

森戸春濤書

8月25日正午必着

教育部 硬筆

ペン字部

望遠きようで夜空の
星をかんべつする

小学五年

静かな森の中で川の
せせらぎが聞こえる

小学六年

海辺の風を聞きながら
白い砂浜を散歩する

中学

平和を求める人々には
世界共通のものである

一般(級位)

山かげの岩間を伝うふ苔水の
かに私はすみ渡るかも(良寛)
のよしにまほすみ渡るかも

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

りうみで
みつや
けど
たか

幼年

からこ
だになつ
を休め
てる

小学一年

海な
水つ
よくす
みへい
いにく

小学二年

わ
た
る
せ
み
の
声

小学三年

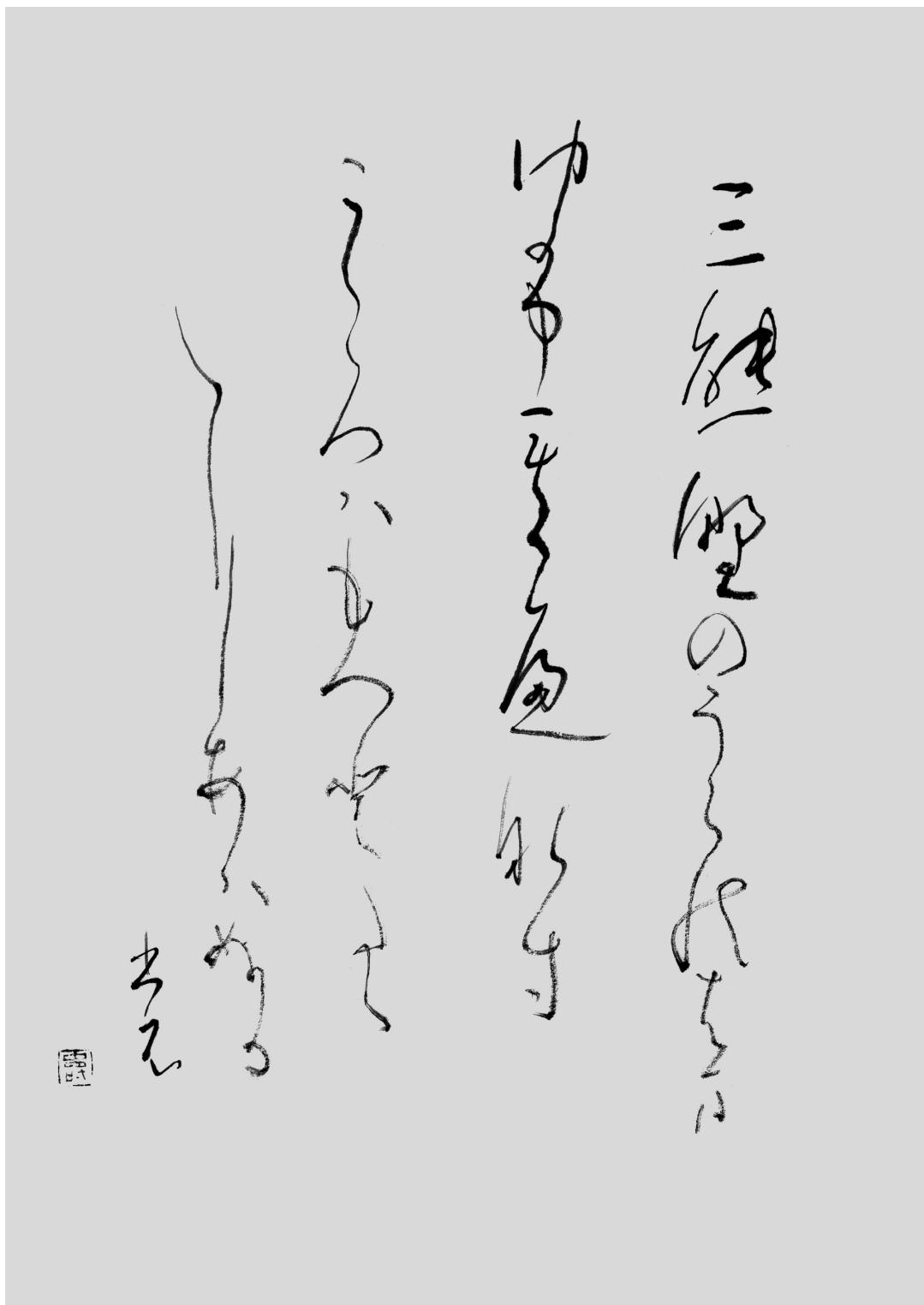
夜空に
のかが
やく天
の川を
見ました

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

8月25日正午必着



み熊野のうらのはまゆふもへなすこゝろはもへどたゞにあはぬかも
能者万毛遍那寸八毛登多耳八可蓑

(柿本人麻呂)